

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究
分担研究報告書

「社会資源の情報共有に関する検討」

研究分担者 荒川 歩
国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科

研究要旨

小児がん患者に対する在宅医療を提供するにあたり、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成し、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とする。

初年度は国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター、大阪市立総合医療センターの Medical social worker（以下 MSW）を中心として、どのような情報をどんな形でまとめることが良いのか、あるいは MSW を中心としたネットワークの構築が可能なのかを議論する。次年度、実際に小児がん患者の診療にあたる施設において患者の在宅医療を目指す上で役に立つ情報を掲載したリーフレットなどの資料の作成を目指す。

A. 研究目的

本研究では、小児がん患者に対する在宅医療を提供するにあたり、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成し、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とする。

B. 研究方法

国立成育医療センター、国立がん研究セ

ンター中央病院、大阪市立総合医療センターの MSW を中心として、班会議等で議論を行い、「社会資源の情報共有に関する検討」という主題に沿ってどのようなネットワーク体制を構築し、どんなアウトカムを次年度に作り出すことが可能かあるいは妥当かを検討する。

検討した内容を反映し、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成する。

(倫理面の配慮)

本研究は医療機関間の情報共有について検討する研究であり、倫理面の問題は極めて少ない。ただし、例外的に非公開情報を取扱う場合には、守秘義務及び個人情報保護を厳守する。

C. 研究結果

まず、アウトカム創出に向けてのMSWを中心とした研究体制を構築した。

MSWとの議論より、MSWを中心としたネットワークの構築については、第2回班会議の結果、労力が大きいこと、常に刷新が必要なこと、各病院が地域ですでに独自のネットワークを有していることより、労力に見合ったアウトカムは得られないという問題点が明らかになり、ハンドアウトやリーフレットの作成のための在宅クリニック選定におけるTipsや終末期診療のノウハウを交換できるような情報収集及び内容の検討を開始した。

D. 考察

班会議による議論を経て、MSWを中心としたネットワークの構築については、難しい課題が多く、作成したハンドアウトやリーフレットの活用方法とともに、状況の変化に伴い改訂を検討できるネットワーク体制のどう築くかという点についても検討していく必要がある。次年度は引き続き、ハンドアウトやリー

フレット等の完成を目指して議論を進めていく。

E. 結論

引き続き次年度も議論を重ね、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助となるハンドアウトやリーフレットを目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

清水麻理子、石木寛人、荒川歩、白川奈美、小川千登世、里見絵理子、当院MSWによる終末期小児がん患者の在宅移行の取り組み、第61回日本小児血液・がん学会学術集会 2019年11月14-16日、広島。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし